

後援会だより

親子でつづる法政の4年間

充実した4年間の日々



経営学部 杉本ひかり

「本気で何かに打ち込みたい」という思いを抱き、法政大学に入学しました。今、学生生活を振り返り、この言葉どおり、サークル活動やゼミ活動を中心に充実した日々を過ごせたと自負しています。 サークルはスポーツ法政新聞会(スポボウ)に所属し、本学体育会の活躍を全国各地で取材しました。数多くの取材の中でも、1年次に取材したアメリカンフットボール部が日大戦で勝利した試合が一番印象に残っています。数年ぶりの

勝利に涙を流し、歓喜する選手の姿に「こんなに熱い思いを持っている人を自分は取材しているんだ」と私自身でも刺激を受けたことを覚えています。この記事を読んで多く読者に、より早く伝えたいという思いから、取材後、仲間も徹夜で行ったWEB制作もよも思いつく。学業面では、竹内淑恵教授のゼミに所属し、関東学生マーケティング大会に向けて、先輩と歩んだ3年次、中心メンバーとして臨んだ3年次、センターとなり後輩を支えた4年次と毎年本気で取り組みました。ときにぶつかり、分かり合い、笑い合えたこの場所こそ、自分の喜怒哀楽を全て出し切れた場所だったと思います。そんな仲間たちと毎日、図



思い出のラーニングコンモンスで3年次のプレゼン原稿

書館のラーニングコンモンスで過ごした時間は、私の大学生活を語る上で欠かせないものになりました。 この4年間を故郷新潟から見守ってくれた家族への感謝を忘れず、法政大学で出会った「よき師、よき友」との思い出を糧に、新たな環境でも何事にも「本気」で取り組み、精進していこうと思っています。

子どもの卒業に当たり思うこと



杉本 信行

かつて私も東京の大学生でした。新潟に戻り30年、大学も東京をはるかに彼方になつていました。あなたが法政大学に入学。東京は隣の町のように近くなり、もう一度大学に戻つたようでした。どの町に住むかわくわくし、毎年キャンパスや神宮球場へ応援に訪れ、昔取った餅ほどはかり2人で履修作戦を練ったり、試験問題の予想をしたりと楽しい思い出に感謝です。 卒業おめでとう。よく頑張りました。「スポボウ」もゼミもバイトも、全部あなたの土台になっています。この先さらに法政大学人として、あなた自身の「自由を生き抜く実践知」を築いていってください。

私にとつてのゼミとは



スポーツ健康学部 高野賢

私は、高校2年生の冬休みに大学受験について真剣に考えました。クラスは理数系でしたが、スポーツに関する勉強をしたいと考えたこともあり、スポーツ健康学部の受験を決断しました。両親とも法政大学出身だったのは最大の偶然です。迷うことなく、サッカー元日本代表である清雲栄純教授のゼミに入りました。元トップアスリートの講義を受けることは、私の今後の人生の中で最高の財

産になると確信していたからです。ゼミの内容は予想どおり充実しており、特に思い出深いのは、Jリーグチーム・川崎フロンターレの運営に携わる経験ができたことです。競技場周りの設備準備を通して、Jリーグの基本理念である地域密着の精神を学び、スポーツを媒体としてさまざまな分野の人たちが接する可能性について確認することができました。また、このフィールドワークの経験を生かし、地域のフットワーククラブにアシスタントコーチとして参加しました。このクラブは、生活環境などにより大好きなスポーツができない子どもたちを支援する活動をしており、スポーツ

の可能性について改めて考える機会を得ました。ゼミでの到達目標は、フィールドワークなどの体験により、卒業後どの分野に進んでも通用する基礎力を身に付けることでした。物事に挑戦する姿勢の大切さは、社会人としてスタートする自分にとって最高の指針となりました。あつきの決断は正しいと思える学生生活でした。



清雲栄純教授と研究室にて

大学生活を振り返って



経営学部 山田唯

高校時代に、自分が目指す道を確実に進む力を身に付けられる大学はどこかと考え、たどり着いたのが法政大学でした。それからは、勉学に力を注ぎ、入学式では晴れの日に武道館の満開の桜が迎えてくれました。 それからの4年間は、多くの先生から私の将来を明確にしてくれる知識を学び、そして、楽しいとき、辛いときも共に学び、語り、悩むことのできる全国からの友人たちにも恵まれました。

学んだ経営学を活用して企業を見極める力を身に付け、堅固な経営基盤と柔軟な拡張性を持つ企業を探し得ました。 また一つ自分の進む道が明確になり、そこにたどり着くための知識という体力を身に付けるべく、多くの先生方から専門的な知識を自分のものとして吸収しました。

勉強以外に、サークル活動で多くの事を学びました。幼い頃から茶道をたしなんでいたため、茶道研究会に入りました。ここでは個性豊かな先輩方から茶道のことばかりでなく、大人の仲間入りをするためのいろいろなことを教わりました。友人たちとも一喜一憂を共にし、成長できた気がします。そして、優れた師範に

師事できたことも幸いでした。 日々の活動では、茶道ばかりではなく、縦のつながり、横のつながりの大切さや難しさを学ぶことができ、後進にもそれを伝えられた気がします。合宿では、日常では体験できないものも学べました。最後に今の私を育んでくれた両親、4年間の大学生活を支えてくれた叔父と叔母、そして諸先生方に対し、心からのありがとうを。



サークル「茶道研究会」の夏合宿

箱根駅伝



経済学部 岡原仁志

振り返ればあつたという間の4年間で、私は中学生からの夢であった箱根駅伝に出場するために広島から上京し、法政大学に入学しました。期待と不安に胸を躍らせていましたが、環境の変化や勉学と陸上の両立に大変苦しかったです。陸上部では毎日5時半から朝練習があります。その後大学の講義があり、夕方から再び練習があります。この生活リズムに慣れるのに半年以上かかりました。

大学1年次に箱根駅伝予選会に出場できたのですが、求められた結果を出せず、その後の箱根駅伝本戦も道での補助員で終わるといふ悔しい1年で終わりました。しかし、そこで腐ることなく、箱根駅伝出場という目標に向かって切り替え、練習に励みました。その成果もあり、全日本大学駅伝に2度、箱根駅伝に3度出場することができました。結果が出ずやめたいと思う時期もありましたが、チームメイトの支え、親や親戚、地元の人たちの応援を励みに陸上競技を継続してこれました。 2年生からは、チームのことを考えて競技に打ち込めるようになりました。

チーム内での自分の役割や立ち位置を把握し、何を行えばチームにとってプラスになるのかを常に考えるようにしてきました。大学4年間は陸上漬けの生活ではありませんでしたが、人間的にも競技者としても成長することができました。卒業後は地元広島に帰って、実業団で働きながら競技を続けました。大学で学んだことをこれから人生に生かしていきたいです。



大学4年次の箱根駅伝後の慰労会、同期の仲間たち

娘に感謝



山田 照子

あなたを送り出したあの日ははや4年、不安でいつも心配していた日々を今は懐かしく思い出します。慣れない環境の中、たくさんの人に助けられ、そしてたくさんの経験を積み、無事に卒業という節目を迎える娘の成長した姿を見て、法政大学に入学して本当によかったと心から思います。私もまた後援会活動を通してたくさんのことが縁をいただき、素晴らしい4年間を過ごすことができました。後援会の皆さまに感謝、このご縁を結んでくれた娘に感謝、そして卒業おめでとう。

子に感謝



岡原 由美子

法大生として箱根駅伝に出場した！、親子の夢がかない、幸です。入学半年後に挫折を味わった際には心配しましたが、はい上がり、3度も出場したあなたを誇りに思います。私も後援会活動を通して全学関係者の方々や後援会の皆さまと出会い、貴重な経験ができました。中でも、広島県支部主催の出雲駅伝応援ツアーはすてきな思い出になりました。この出会いは最高の宝物です。 法政で学んだことを誇りに、出会えた友人との絆を大切に、実業団でも頑張ってください。

幅広い経験の重要性



グロバール教養学部 (GIS) 内堀 文佳

幼少期から英語で学ぶ環境の中で育った私は、大学でも自分が最も興味のあるメディア、特に音楽と社会の関係性を英語で勉強したいと思い、グローバル教養学部 (GIS) に入りました。

ダイアナ・コー教授をはじめとする先生方から、社会学や文化人類学の授業を受けるうちに、教室で学んだ理論がさまざまなコミュニケーションで実際にどう適用されているのかを自分の目で確かめたくなりました。そのために派遣留学制度で

英国に行くことを目標に掲げ、さらに勉学に励んだ結果、見事リーズ大学への切符をつかむことができました。

リーズ大学では日本で学んだことを基礎に、メディアの社会的影響力についてより専門的に勉強しました。また、普段の生活や現地でもきた友人との交流の中で、日本では発見できなかった違いや共通点を見つけることができました。

帰国後はコー教授の指導の下、ヘヴィメタルについて考察する卒業論文を書き上げました。日本と英国の両方で学んだ経験、そして勉学の傍ら励んだ音楽サークルでの活動がなければ、さまざまな視点からの分析をまとめ、納得のいくものを

書くことはできなかったと思います。18歳の自分が予想していたよりもはるかに多くのことを学び、充実した学生生活を送れたのは、一つのこと、一つの場所に留まらなかったことで、いろいろな経験ができた、またその機会が与えられたからです。両親、先生方、友人、関わってくれた全ての人に感謝しています。



リーズ大学にて。授業で多く使用していた校舎

卒業おめでとう



内堀 文明

法政大学の4年間、よく頑張りました。進学報告を聞いてからの4年、あっという間に過ぎました。君なりに、迷い、苦しみ、模索し、ハードルをクリアしてきましたね。「もっとうまくできないかな」と思うところもあつたけれど、教授、友人との出会い、留学、サークル活動、貴重な時間を無事過ごすことができました。

これからのたくさんさんの経験を積み、自己研さんに励み、実りある時を過ごすよう期待します。君のおかげで、卒業以来40年ぶりに法政大学に行く機会を得ました。後援会活動では、たくさんさんの出会いと楽しい時を得られました。ありがとうございます。

新しい自分への成長期間



経済学部 小山 史季

法政大学への進学を機に初めて親元を離れ、都会での生活を始めました。2年間は祖父母の家でお世話になり、弟の進学に伴い2人暮らしを始め、家族のありがたみを身に染みて感じました。また、私の憧れであった都会の大学に進学させ、さまざまな経験を積み機会を与えてくれた両親にはとても感謝しています。

この4年間は振り返ると、難病を患ったこともあり、多くの困難がありました。しかし、それ以上に毎日が楽しくとても

充実していたと感じます。それは出会った仲間にとっても思われ、いつも私を大切に思ってくれている家族がいたからです。

そして、さまざまな刺激を受け、多くの経験をしたことにより、私自身成長し、新たな自分と出会ったことがありました。私の成長に特に大きく関わったのは、ゼミとアルバイトでの経験です。

ゼミでは仲間が助け合い、たくさん知識を得られる有意義な時間を過ごせたと感じています。さまざまなテーマに取り組み中で、無関心なところにも徐々に興味を持っていくようになりました。アパレル店の店員やキャンペーンガールのアルバイト経験を通して、社会人としての基礎的なマナーを身に付け

られました。また、初対面の人ともすぐに打ち解けられるようになったことが一番の収穫だったと思っています。

この法政大学での4年間で多くの苦手を克服し、人間的にひと回り大きく成長できました。これからも多くの経験を積み、成長し続けていきたいと思っています。



多摩キャンパス百周年記念館で行われた経済学部「学生プレゼンテーション大会」の部の仲間と

自分にしかできないこと



現代福祉学部 古谷 栞

将来、父のように地元栃木県の活性化や地域づくりに貢献したいという思いから、現代福祉学部に入學しました。4年間の大学生活の中で、学業や将来に対する考え方や意識は大きく変わりました。まず、自分が夢中になれる研究分野に出会うことができました。学部のプログラムを使ってさまざまな地域に実際に行き、伝統的な町並みとその活用やコミュニケーションについて研究し、地域で活躍する方々との出会い、関わることもできました。

さらに、所属するゼミの先生に声をかけていただき、イラストを用いた会議の記録技法「グラフィックレコーディング」をさまざまな地域の現場で実践することができました。ここでも地域の第一線で活躍する方々にお会いでき、地域や学業に対する意識が高まりました。

これらの経験を通して、将来は地域の中で活躍するプレイヤーになり、「自分にしかできないこと」を、そこでしかできない場所でした」という目標を持つことができました。町並みの研究やグラフィックレコーディングだけでなく、4年間多くの地域に行き、学ぶことができました。地域での多くの出会いや経験から、卒業後は法政大学大学院に進学する



エリアマネジメント実務勉強会でのグラフィックレコーディング

ことを決め、地域についての理解をさらに深めたいと思っています。この決断や目標を応援し、サポートしてくれる両親、先生方、友達、地域の方々には本当に感謝しています。これから進学し、社会に出た後も、この最高の4年間の忘れずに生きていきたいと思っています。

大学生の成長



デザイン工学部 富田 洋瑛

私の大学生活は、勉強の日々でした。勉強というのは学問の専門的な学習のみではなく、生活であったり価値観であったり、そういったものに関する多くの経験を得ることができたと感じています。

まず、大学ではデザインに関する知識や「モノ」をデザインする一連の流れなどを学ぶことができました。私はデザインを学ぶ中で、現代に必要なデザイン在り方を見つめました。現代におけるデザインとは、身の回りのありとあらゆる

モノを、その機能や役割に着目し考え直すことで既存の「かたち」にとらわれず、最適なかたちを目指すことが重要なのだと考えようになりました。

次に、アルバイトや大学での友人関係などから、人間関係の難しさを学びました。静岡県浜松市の実家を離れ、一から自分の力のみで人間関係を築くという経験は、私を強くしたように思います。他人を知ることで、また他人と自身の関係から自己分析していくことで、私自身の性格や得手不得手がだんだんと分かってくるようになりました。成功も失敗もありました。しかし、失敗しても取り返しがつかないなんてことは、大学では返りそうありません。そういったトライ&エラーによって成長できるのも、大学生ならではの経験だ

と思います。私は公私共に充実した大学生活を送ることができました。卒業まで残りわずかですが、この残された少ない時間を私なりに大学生でしかできないことに使いたいです。



課題で制作した会議機の使用感を確認しつつ、話し合っている様子

大好きな娘に、ありがとう



小山 裕久

法政大学の素晴らしい4年間を共に過ごせ、大変うれしく思います。より専門的な学びを得たのに加え、新たな環境での友達との出会い、親元を離れての生活で多くの経験を積んだことは、今後をたくましく生き抜く力になったことでしょう。思いも寄らぬ病気になるまで急ぎで病院に駆け付けたこともありましたが、当の本人はいたってあつたかんと前向きに振舞っていました。さぞかし不安も大きかったことと思います。いつも周りに気遣い、明るく振舞うやさしいあなたが好きです。これからの人生を豊かに楽しく過ごしてほしいと願っております。卒業おめでとう！

卒業に寄せて



古谷 秀幸

卒業おめでとう。下宿生活に不安を抱きながらの入学から、あつという間に月日がたつた気がしますが、

法政大学の4年間、特にゼミに所属してからは、より充実していたように感じます。まちづくり研究の一端で愛媛県や奈良県へ出向き、地域の人々と交流したことは今後の貴重な財産になるはずですよ。

卒業後の進路には、大学院進学を選択しました。これも自分の将来像が明確に定まったからでしょう。引き継ぎ、夢に向かう挑戦を応援します。

わが道



富田 京衛

多くの大学の中から法政に入學し、学部・学科、ゼミに就職と自ら道を選択してきましたね。その道を選択するに当たって、教授や学友など多くの人に指導や助言をもらったことと思います。わが道は、いろいろな人との関わりの中で進んでいくものです。これからは、多くの人と出会って仲間をつくり、わが道を進んでください。最後に、後援会の充実した4年間、たくさん思い出をつくってくれてありがとうございます。4年間本当に頑張りました。卒業おめでとう。そして、よろこび社会人の舞台。